

# 回復期リハ病棟で働く介護職員の意識の変化 ～カンファレンスに参加して～

京都近衛リハビリテーション病院

看護介護部 小原 充 河井 健太郎 南 百合香 中原 晶子

## はじめに

回復期リハビリテーション病棟（以下、回リハ病棟）における介護職の役割は「日常生活援助」中心から「自立支援」の視点が加わり求められる介護の「質」が高まっている。介護職としての役割が発揮できるようにカンファレンスへ参加した。しかし参加経験が少なく、発言ができていなかった。カンファレンスに参加する中で徐々にではあるが発言できるようになり、患者との関わりの中でよりADLを意識するようになった。回リハ病棟経験が長い介護職の方がカンファレンス参加後、患者との関わりについて意識の変化の差が大きいのではないかと仮定した。

## 目的

カンファレンスに参加をした事で、開院当初より患者との関わりについて意識の変化があったのか、また意識の変化の内容について検証し、今後の課題を明確にする。

## 方法（研究デザイン：量的研究）

1. 対象者：受け持ち患者のある介護職員（計14名）
2. 調査方法：アンケートによる意識調査
3. 調査実施期間：2019年9月9日～9月13日

## アンケート内容

- 問1 カンファレンスに参加をして、患者との関わりについて意識の変化がありましたか  
問2 意識変化の内容を教えてください

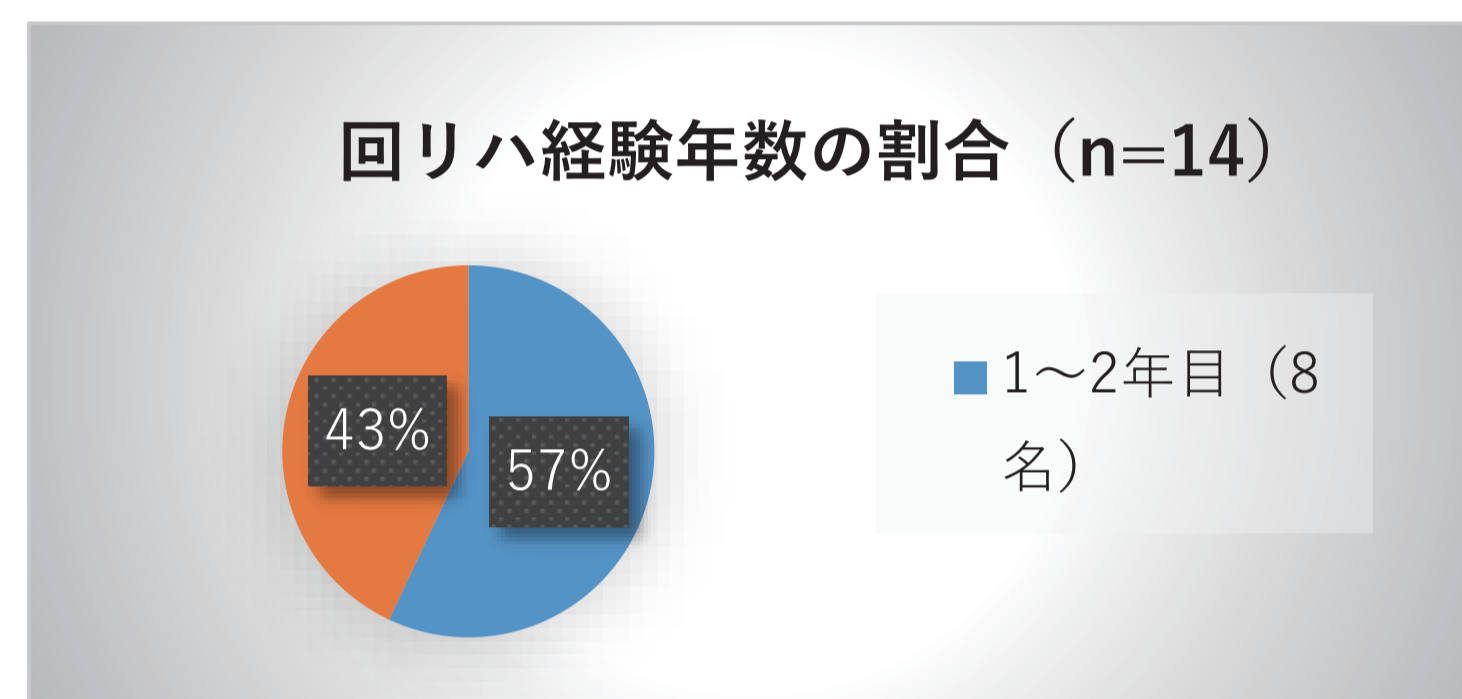
- 1) FIM変化
- 2) FIMアウトカム
- 3) 個別性のある介助方法
- 4) 入院前退院後の生活に関する事
- 5) 病棟での関わり方
- 6) 選択肢以外で意識変化があれば自由記載

## 倫理的配慮

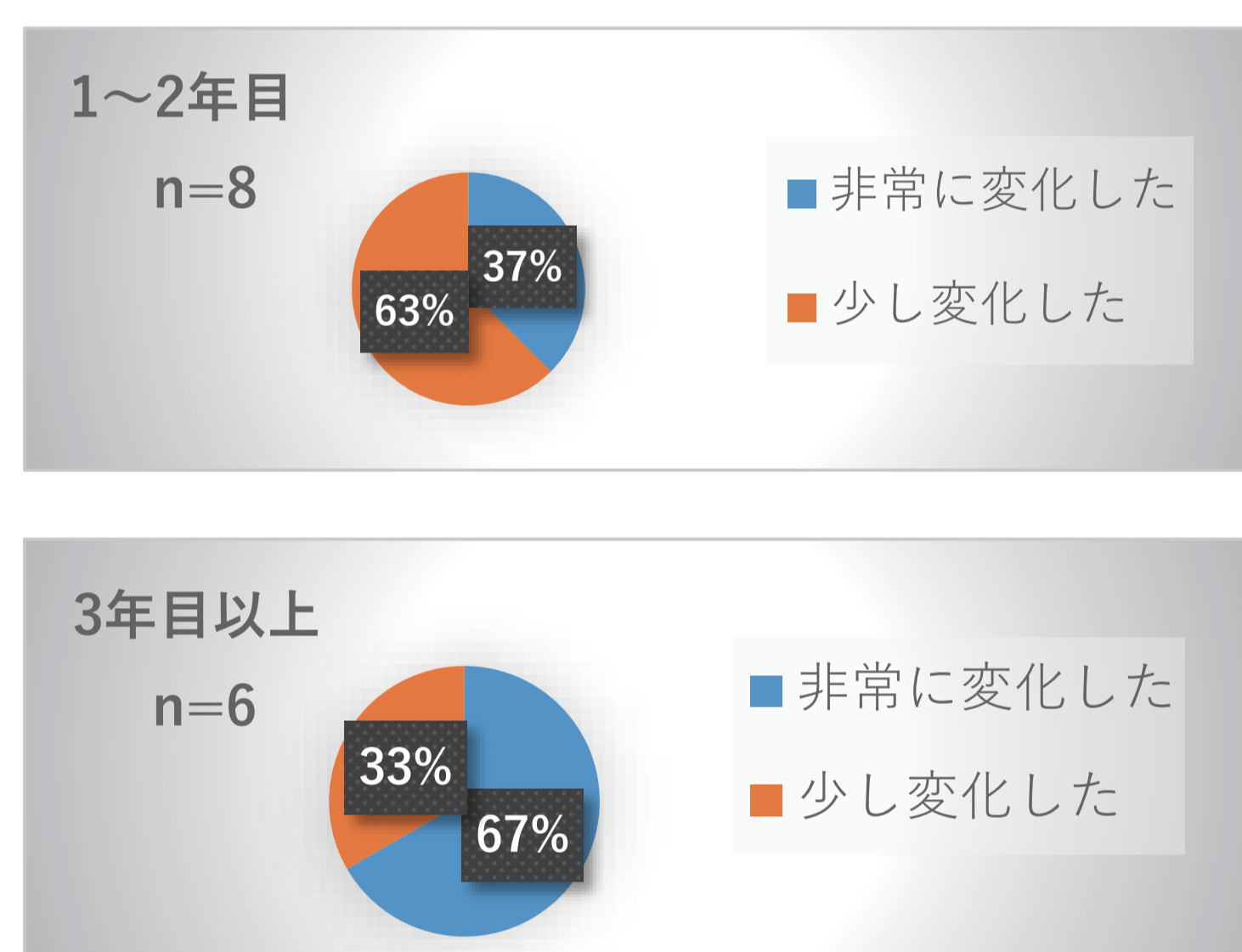
研究対象者には、以下内容に関して文書を用いて説明した

- ①研究目的
  - ②研究協力の自由を約束し、拒否により不利益が生じない
  - ③無記名での記載
  - ④個人が特定できないようデータを取り扱い個人情報に留意する
  - ⑤本研究以外にはアンケートを使用しない
  - ⑥アンケート用紙は研究メンバーのみで取り扱い、本研究終了後、シュレッターで破棄する
  - ⑦回収後のアンケートはカギのあるロッカーに保管する
- なお、本研究は、職員教育委員会の倫理審査を受けている

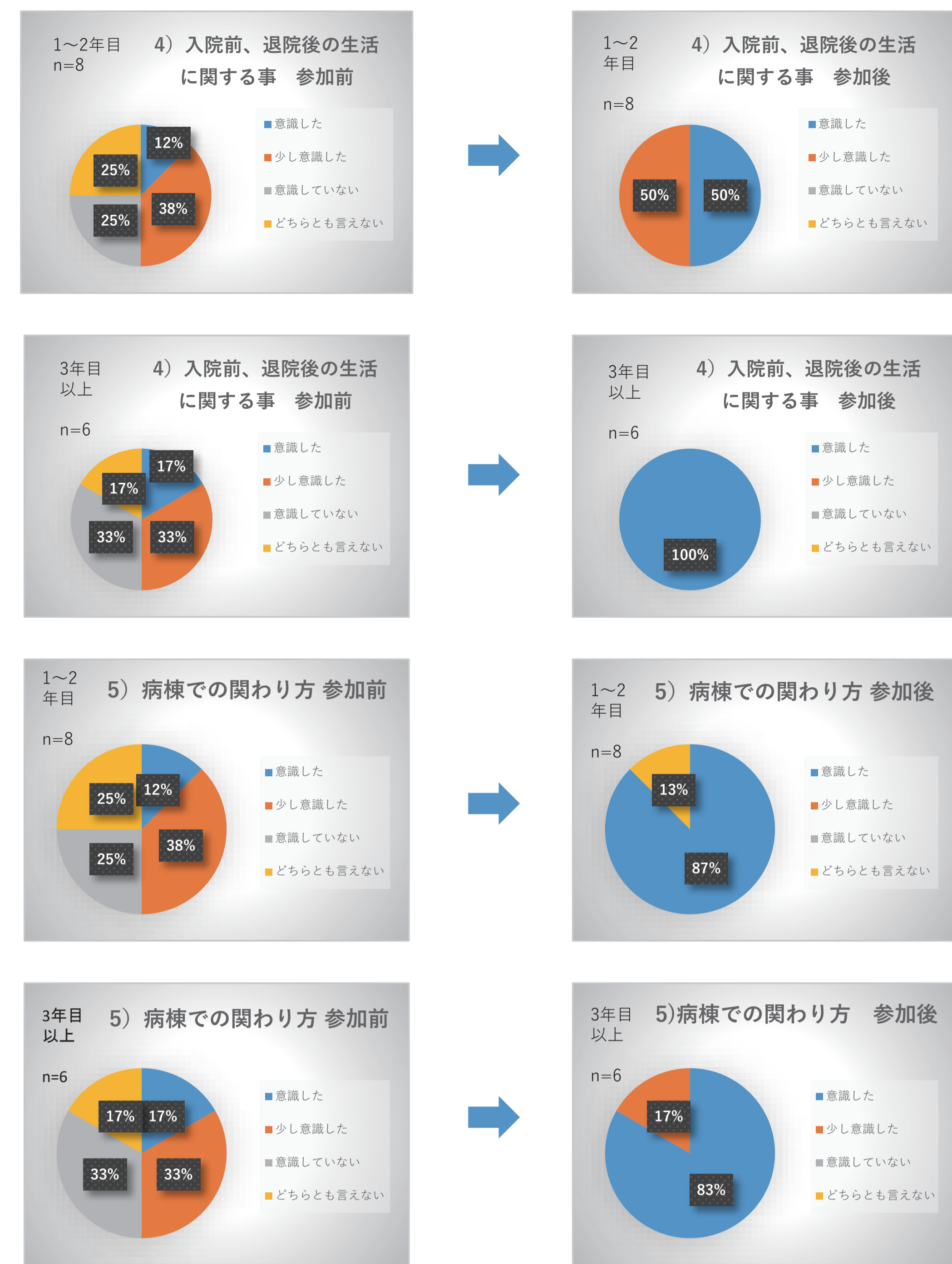
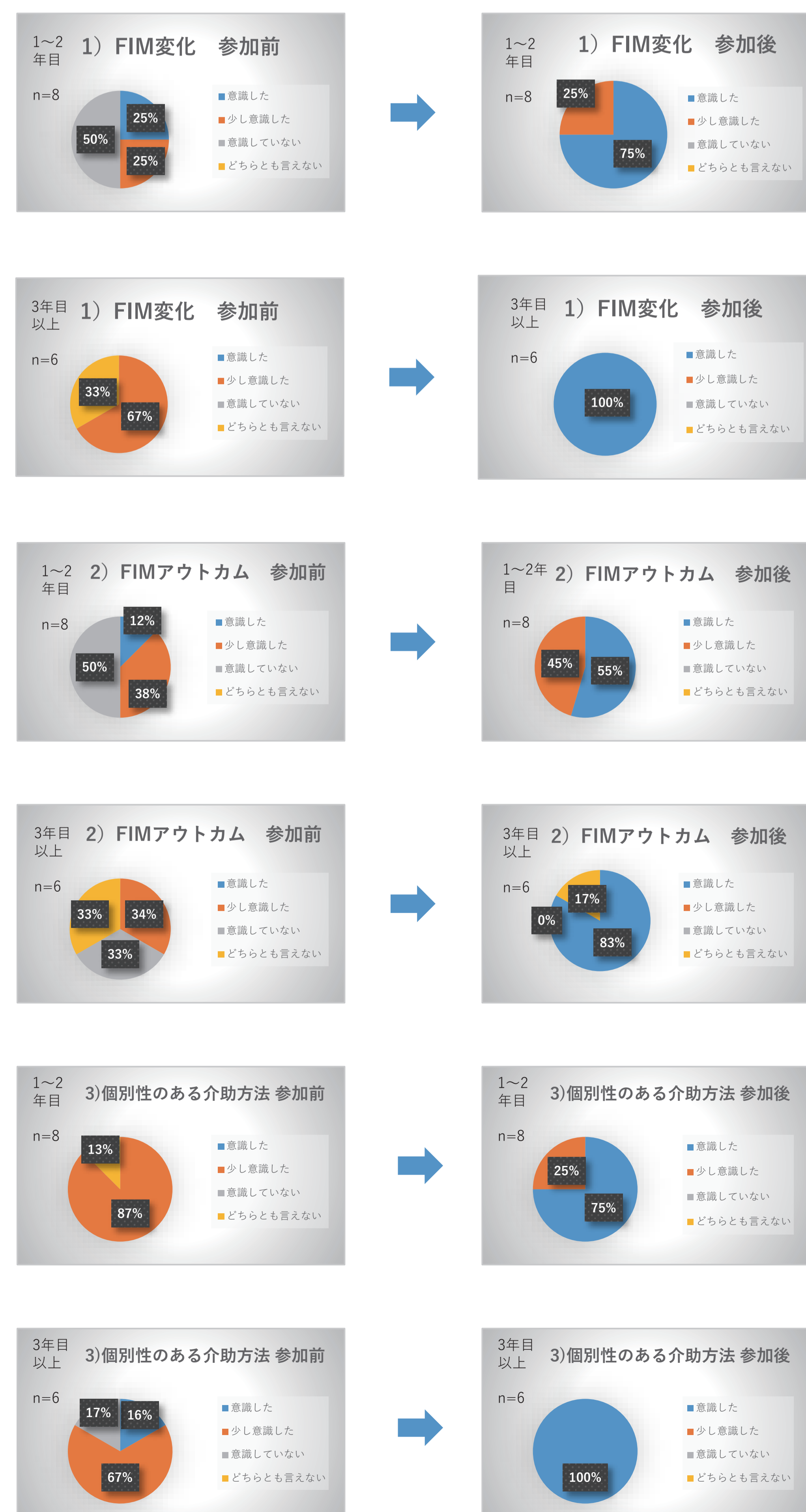
## 結果



### 問1. カンファレンスに参加をして、患者との関わりについての意識の変化がありましたか。



### 問2. 意識変化の内容を教えてください。



### 問2. 6) 「選択肢以外に意識の変化があれば自由に記載して下さい。」

- ・全て介助するのではなく、**自立支援を考慮して介助するようになった。**
- ・カンファレンスに出席することで、以前よりも患者の生活動作に目を向けるようになった。そのことにより、各患者のADLがより明確に理解でき**過介助にならず、個別性のある支援ができたように感じた。**
- ・**多職種と連携**することで、自分が**チーム医療に携わる一員**という自覚が持てた。
- ・各患者の**転帰するための課題を知ることで、自分の介護に根拠を持って患者に接することができた。**
- ・家に帰った後や家族との関わり、家に帰ってからの生活があまりわからず、情報も少なかったのであまり考えられなかったが、**カンファに参加することによって視野が広がった。**

### 考察①

対象者全員に意識の変化がみられたが経験年数が長い介護職員の方が非常に意識の変化が多かった

今まで行ってきた支援が根拠を持った支援であったと意識するようになった

### 考察②

目標やゴールの把握・退院までに何をしなければならぬかリハ以外の21時間についてどのように過ごしてもらうか

意識の変化

### 考察③

回復期の役割を意識した記載

自立支援  
多職種連携  
根拠を持った介護  
退院後の生活の意識

回リハ病棟介護の役割を理解する学習の場

回リハ病棟介護職として自信につながっている

### まとめ

カンファレンスに参加することで患者との関わりについて意識の変化があることがわかった。

意識の変化があったことを質の向上に繋がられる要因として現状の課題に取り組んでいきたい。

### 参考文献

- 1)磯部香奈子：回復期リハ病棟で働く介護職の歩みと目指す介護～10か条、回復期リハビリテーション病棟協会機関誌,17(4),26-29,2019
- 2)井村太治：回復期の生活支援～介護職の視点と専門誌,17(4),6-15,2019
- 3)伊東由美子：訓練以外の「21時間」の過ごし方 病棟アクティビティの工夫,リハビリナース,8(6),7-60,メディカ出版,2015
- 4)沢田光忠郎：最強の「カンファレンス」成功術,リハビリナース,12(1)5-57,メディカ出版,2019



京都大原記念病院グループ  
KYOTO OHARA HUMAN CARE NETWORK